

研究結果報告書

日本の震災復興学：阪神淡路大震災 20 年の残された課題と韓国の失われた災害ガバナンス 20 年

所属：高麗大学校 日本研究センター

役職：助教授

氏名：金 暎根

研究課題の一つは近年、日本で発生した大災害後の社会的変化について社会学的な視点から分析するものである。分析結果は次の通りである。安全国家に見えた日本の社会は、阪神淡路大震災(1995年)や東日本大震災(2011年)後、極めて脆弱な基盤のうえに成り立っていたことを白日のもとにさらした。災害は日本(人)の価値観や思想にまで影響を及ぼした。震災からの復興に向けた日本社会の対応を分析すると、東日本大震災の災害復興プロセスを見ると約20年前の阪神淡路大震災の経験が生かされていた。しかしながら、想定外の福島原発事故に関しては災害対応先進国である日本さえ何をなすべきなのかうまく対応(災害ガバナンス)が出来ないという脆弱性を露呈した。

未曾有の大震災によって日本が直面した危機的状況とその生々しい災害現場(被災者や災害専門家)からの声と災害後の対応は韓国(4.16セウォル号)での災害にも的確に生かされるべきであった。震災と二つ目の研究課題である、震災(災害)後の政治、経済構造や政策(制度やガバナンス)をいかに変化、対応させたのかという問題意識から出発し、被災実態に基づいて災害後の政治、経済・社会政策に関する日韓比較を行なった結果を一言で表すと、「韓国の失われた災害ガバナンス20年」と言える。1995年1月、日本の兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)が発生し、韓国では同年6月に三豊百貨店の崩壊事故が起こった。しかし、その後の約20年を(2015年から)振り返ると、韓国と日本の災害ガバナンスには雲泥の差が発生している。韓国では、政府レベルでの安全文化の欠如、あるいは未熟さが露呈され、職業倫理などの問題ともからみ合っただけで大きな問題となっているのが現状である。今後、日本の経験をどのように生かして韓国型災害ガバナンスを構築するのは大きな課題である。

大震災(大災害)の発生後、日本では自然災害のみならず、国民の意識(社会学的な災害対策)や社会構造(社会的な災害対応システム)、ひいては経済構造や経済政策にも大きな変化と対応が迫られた。これらを研究する震災(災害)学も、被災者、地方自治体や政府、NGOなどの多角的な視点で考えるべきである。しかも、地震被害や津波被害、原発事故などによる放射能被害から複合的な連鎖危機を視野にいれて研究せざるを得ない時代になっている。まさに、震災学は議題(アジェンダ)や分析レベルの多様化が進んでいる。

大災害は一国(日本)の問題だけにとどまらず、国際的な関心を集め、「災害」ガバナンスの重要性が各国で高まっている。しかしながら、国際制度と言った漠然とした国際システムレベルの視点では災害からの復旧・復興や再生のプロセスを十分に明らかにすることは難しく、地域の利害関係集団、地方自治体、政府を巡る国内政治プロセスにも着目する必要がある

ことを実感した。

地震がないと思っていた韓国において9.12慶州地震が発生した。今回の研究は、その独創性が非常に高く、議論だけではなく、今後、韓国における災害復興プロセスやメカニズムになどの具体的な検討を行う上で示唆するところが大きい研究であると自負している。本研究の成果は、ひとまず、日本や韓国での研究会・学会での発表を経て、日本・韓国・欧米などの有数の学会誌などで単著1冊、論文3本などとして発表した。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

01 島根県立大学 日韓・日朝交流史研究会 & 心の問題勉強会 [2016年1月7日(木)16:30~18:00]

「韓国の失われた災害ガバナンスと災害復興学- 新たな日韓協力アジェンダの模索」

02 関西大学 [社会安全学部学術講演会] 2016年1月18日(月) 10:40~12:10

「韓国の失われた災害ガバナンス20年：日本3.11東日本大震災からの教訓」
http://www.kansai-u.ac.jp/Fc_ss/news/detail.html?id=467 (関西大学ホームページ)

03 第3回 日韓共同シンポジウム]2016年1月23日(土)「災害と空間変容：記録・表象・地政学」@ 鹿児島大学

「ポスト3.11とアジアにおける地域災害復興の変容：トランス・ナショナリズムと脱地政学」

04 2016年1月30日(土) 10:00~16:00 発表

金暎根「日本の災害復興学と現場力、そして トランス・ローカリゼーション」日中韓・国際学術シンポジウム「巨大災害からの復興～東アジアの新たな協働を考える」@ 関西学院大学

05 震災復興学セミナー

-----日時：2016年2月2日(火) 17:00 ~ 19:00

場所：都市安全研究センター会議室(2階)

講演題目：日本の震災復興学と国際協力： トランス・ナショナリズムと現場力

講演者：金 暎根 氏(高麗大学 GLOBAL日本研究院 社会災難安全研究センター長)

講演要旨： 日本の震災復興学について概観し、国際協力への道を模索することを目的として、災害がもたらすグローバル危険社会におけるトランス・ナショナルな(越境的)営為、及び、社会文化的・政治経済的変容とそのプロセスに着目しつつ、「トランス・ナショナリズム」と「現場力」について考察する。また、グローバル時代における災害ガバナンスの協力メカニズムへ向けての課題を提示する。

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

金暎根김영근(2015) 「일본의 재해부흥 문화에 관한 일고찰: 재난관리 체제 및 구호제도-정책을 중심으로(The Japanese Culture of Restoration from the Disaster) 日本の災害復興文化に関する一考察：災難管理体制及び救護制度・政策を中心に」『인문사회 21』 (사)아시아문화학술원 / 2015년 12월 31일 발행, pp.1039-1060, / 1,184쪽 / ISSN 2093-8721

金暎根(2016)「日本の震災復興学と国際協力： トランス・ナショナリズムと現場力」『日本研究』12月30日(掲載予定)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

金暎根編(2016)『日本の災害学と地域復興』InterBooks(2016.9.12)

金暎根著(2017)『韓国の災害学』高麗大学出版部(刊行予定)